



女性の視点を防災に
活かす計画について
いこの会 田中 ひろこ

問 東日本大震災から4年半、被災地の教訓を踏まえ、市として準備が進んでいることもあれば手付かずのこともあると思います。災害時や防災活動で女性がリーダーシップをとれるよう女性防災リーダー養成講座の開催計画があるか伺います。

答 (危機管理担当専任参事)：平成21年海老名市災害対策女性懇談会の提言を受け、海老名市地域防災計画や避難所運営マニュアルの見直しを進め、男女双方の視点および要配慮者の視点を取り入れた対応をしてきています。具体的には、女性用品や授乳用品などの備蓄、避難所での授乳室確保、トイレ設置位置の配慮や要配慮者スペースの配置計画について、避難所ごとに検討し、地域の皆様にも意見をいただきながら進めており、避難所の開設訓練や運営訓練を通じて、適宜マニュアルの整備を行っています。

防災指導員については、男女の区別なく地域の自治会から推薦を受けた方を任命しており、平成17年から現在まで12名の女性に参加いただいております。

女性防火推進員は、平成20年度に制度化し、自治会から推薦された59名の方にご協力いただいております。

その他の質問

・性的少数者(LGBT)の理解と支援について



厚木駅第2踏切拡幅
の進捗状況について
日本共産党 松本 正幸

問 厚木駅第2踏切内の歩道が狭く、朝夕の通勤通学時、遮断機が上がった時に大勢の歩行者、自転車、車が一齐に横断するので、大変危険な踏切として以前から地元議員はじめ自治会からの強い要望が出されてきました。

大事故がいつ起こっても不思議でない危険な踏切です。一日も早い踏切拡幅が望まれます。厚木駅第2踏切拡幅の現在の進捗状況と今後の取り組みについて伺います。

答 (建設部長)：JR相模線と交差する市道12号線につきましては、平成24年度に厚木第2踏切を含む県道43号藤沢厚木から東側の西部排水路まで約300mの区間において北側の歩道を拡幅整備する計画決定を行い、事業を進めています。踏切の拡幅には、踏切前後の事業用地の確保が前提であることから、平成26年度には踏切東側にある小田急電鉄変電所の用地を買収し整備を完了いたしました。

今年度は、踏切の西側において用地を確保するため、関係地権者との交渉を行っているところです。今後は、こうした交渉の進捗を踏まえながら、踏切の拡幅に向けた鉄道事業者との協議を進めてまいります。

その他の質問

・公共施設のあり方について

・地域経済活性化と中小企業・商店の支援について



子育てしやすい
まちづくりについて
公明党 日吉 弘子

問 少子化を食い止め、ずっと住み続けたいまちにしていきたいために、安心して子どもを預けられる保育園や学童保育の整備が必要であります。そこで本市の待機児童解消の取り組みと相談体制の充実や移動サロンの拡大、子育て支援センターの地域版を市内に複数設置をしていただきたいと思います。

答 (保健福祉部長)：保育所については本年10月に60名の定員拡大を図り、来年4月に150名の定員増の取り組みが行われます。待機児童解消プランに基づき、民間との協力により可能な限り早い時期での待機児童解消を目指します。また、保育所に入所できなかった方へのフォローや民間を含めた保育サービスなどの情報収集、子育て支援全般の案内などができる体制づくりを検討しています。

答 (市長)：移動サロンは、保護者から好評を得ていることからさらなる子育て支援の充実を図るため、来年度からは開催を月2回に拡大してまいりたいと考えています。子育て支援センターの地域版については、移動サロンを拡大する中で利用者の声を伺いながら、検討してまいります。

その他の質問

・交通不便地域対策について

・いじめ・不登校対策について



健康寿命延伸の
取り組みについて
真志会 中込 淳之介

問 健康寿命延伸と切り離せないのは未病を治す取り組みです。

西洋医学では数値の異常で病気とみなします。そのため、何となく元気が出ない、疲れやすいなどの症状があっても、数値に異常がなければ病気とみなされません。

東洋医学の一つである中医学ではこの状態を未病とみなします。未病の状態が続けば、今は病気ではなくとも将来的に病気になるってしまいます。

この未病を治す取り組みは、予防医療につながり医療費も抑えられると考えます。本市は未病センター開設に向け準備を進めていますが、未病を治す取り組みの考えや必要性など市長の所見を伺います。

答 (保健福祉部長)：健康な生活を送るためには病気になる前に予防し、重篤な結果にならないようにすることが重要だと考えております。

このため、本市といたしましても未病センターを保健相談センター内に設置したいと考えております。体組成計、骨密度計などを備え健康測定ができるもので、近隣市町村で健康機器や運営方法を共通化し相互利用できるような導入を進めております。

その他の質問

・東西一体のまちづくりについて

・北部公園の周辺整備について